

この度の記録的な豪雨により、被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

現在会員登録数 4,089 人さま。次号は 8 月 22 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち ※休載

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 講演会「児童文学のしあわせ」

講師の八束澄子さん（児童文学作家）に自作についてお話しいたします。

◎日時：9月16日（土）13：30～15：30

◎場所：大阪府立中央図書館 多目的室 ◎参加費：300円 ◎定員：60人

※ 詳細・申し込み↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#050916

● オンライン講座「2022年に出版された子どもの本から」

2022年に出版された子どもの本約300冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子どもの本の傾向について考えます。（約3時間半）

◎講師：土居 安子（当財団総括専門員）

◎視聴期間：7月15日（土）～12月15日（金） ◎視聴料：1000円

※ お申し込み（Peatix）→ <https://2022kodomonohon.peatix.com>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

*年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701/>

- YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/@iiclol196>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html

- 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム
■ ----- ■

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『ひと箱本屋とひみつの友だち』 赤羽じゅんこ/作 はらぐちあつこ/絵
さ・え・ら書房 2023年6月 対象年齢：小学校中学年以上

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

* 作品の結末まで書かれています。

あらすじ：小学5年生の朱莉（あかり）は、ひと箱本屋カフェ「SHIORI」で販売されていた、6年生の理々亜の創作した本を買って読んで感動し、手紙を書いて、友だちになる。理々亜は、車いすに乗っていて、そのことで嫌味を言われた高校生にしっかり反論をするタイプ。仲良くなつて、二人だけで盆踊りに行くが、車いすの車輪が溝に落ちてしまい、そのことがきっかけで疎遠になる。その後、二人が好きな作家のサイン会で再会する。

T：まず、朱莉と理々亜がひと箱本屋で出会うまで、出会ってから仲良くなるまでが具体的かつリアルに描かれていると思います。

Y：ひと箱本屋で理々亜と待ち合わせをしていた朱莉が、理々亜が車いすユーザーだと知って躊躇しながらも、「人を差別する人には、なりたくない」と、勇気を出して理々亜に出会うところは私もドキドキしながら読みました。

T：二人とも本音がしっかり書かれ、朱莉が、理々亜や自分のことを少しずつ理解すると同時に、理々亜も、朱莉や自分のことを少しずつ理解していく様子が描かれている点が納得できました。作品全体にいえませんが、理々亜にとって何が物理的、精神的な「バリア」で、どうしたら「バリアフリー」の道が開けるのかということがよくわかります。

Y：読書好きの朱莉には、ダンスを習っている陽菜（はるな）という親友がいますが、趣味や家庭環境が違うため、関係が少しぎくしゃくしている様子が冒頭に出てきます。そこから、理々亜を交えて3人で友だち関係を作るときの、陽菜の理々亜に対する、壁を作らない接し方がいいなと思いました。陽菜が出てきたことで、朱莉と理々亜がわかりあえたことは、どんな人間関係でもあることだと感じられます。

T：陽菜の高校生のお姉ちゃんも、朱莉と陽菜の仲をとりもつ、いい役割を果たしています。

Y：最近、本屋さんが減っていますが、この作品には、ひと箱本屋さん、作家のサイン会をするぶんぶん本屋さんが登場し、本屋さんが地域の文化拠点として、人をつないで育てる場となっていることが描かれています。

T：理々亜は、ひと箱本屋に出品しているため、本屋さんのクリスマス会に参加することができて、大人たちと交流します。そういう場があることがすばらしいと思います。

Y：作品の最後に、理々亜が朱莉のアイディアも借りながら完成した新しい本『バッシュにおまかせ』が掲載されています。物語を書くことの楽しさが伝わってくる終わり方だと思いました。

T：まさに小学生が書いたような、それでいて理々亜の日常や願いが感じられる物語です。この物語がおしまいにあって、「あー、おもしろかった」と読み終わる作品になっているのが魅力です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第95回「花壇工作」

「花壇」という舞台

〈園芸家〉の〈おれ〉は、仕事着のまま病院の中庭に立ち、花壇の設計をしています。設計図を持たないのは〈書くのが面倒〉であり、〈現場ですぐ工作をする誰かの式を気取った〉ためでもあります。

多くの観衆（草取りに来ていた人、院長の車夫、レントゲンの助手、見知りの町の人たち、村の人たち、見習いの看護婦たち）も見守るなか、〈すっかり舞台に居るようなすっきりした気持ち〉で〈愉快的創造〉の時間を過ごしていましたが、窓から見ていた院長が〈とうとうこらえ兼ねて〉下りてきます。

（どんな花を植えるのですか。）

（来春はムスカリとチュウリップです。）

（夏は）

（そうですね。まんなかをカンナとコキア、観葉種です、それから花甘藍と、あとはキャンデタフトのライラックと白で模様をとったりいろいろします。） ——中略——

（どういう形にするのです？）

（いま考えていますので。）

（正方形にやりますか。）

院長は俄に自案を述べはじめ、園芸家の〈愉快的創造〉はぶち壊しとなります。〈もう今日はだめだ。設計図を拵えて来て院長室で二人きりで相談しなければだめだ〉と考え、〈おれ〉は心地良い時間を台無しにした〈観る人〉たちを強い表情でにらみまわします。が、結局は誰も自分を見ておらず、〈あんまり過鋭な感応体おれを撲ってやりたいと思った〉ところで物語は終わります。

園芸やそれに伴う労働が〈愉快的創造〉であるという点は、雨蛙たちが気持ちよく庭仕事を行う賢治童話「カイロ団長」（本メルマガ N0.110 参照）にも通じるところで、作者自身の実体験に基づくものとされます。創造力に自信を持つ〈おれ〉は、〈音楽を図形に直すことは自由であるし、おれはそこへ花で Beethoven の Fantasy を描くこともできる〉と考え、音楽・文学（童話や詩）・造園・美術等を自由に行き来し、そこに自然や風景を取り込むこともできるようです。

異なるメディアを縦横に変換し、愉しみながら一つの物語（作品）として観客に提示しようとする園芸家は、さながら舞台演出家であり、キャスティングする監督であり、舞台美術や音響・照明に気配りしつつ、それぞれに光をあてて全体の調和を図る統括者でもあります。自由なる創造を伴う花壇設計という庭仕事は、作者にとっての童話や詩作ともつながっており、あらゆる創造的営為の原点・原動力ともいえそうです。（ペ吉）

（本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション2 注文の多い料理店』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 49

「おかんとけんかして井戸の底に落ちこんで、もう死んでやるって気分ときでも、ポルノ聴いと思ったら、なんか知らんまに浮きあがってこれるんよ」
ドキとした。いつもはずんでいるように見える恵にも、そんな瞬間があるんだ。
「ポルノって不思議。ときどき、ああ、ポルノは歌で、うちらとこの広い宇宙とをつないでくれとる。そんなふうに感じるときがあるんよ」
そう、そうなんよ！

（『明日につづくリズム』 八束澄子/著 ポプラ社 2009年8月 p.88）

広島県、因島の中学3年生の千波と恵は、大のポルノグラフィティ（実在する2人組のロックバンド、本文では、ポルノと略されている）ファン。引用は、千波が恵にポルノの魅力を熱く語っているところです。方言が心地よく、受験を控え、島を出るかどうかの選択を迫られ、家族関係にも悩む二人が、ポルノを聴くことで、解放感を得ている様子がいきいきと伝わってきます。

千波には、小学生の大地という弟がいます。大地は児童養護施設からひきとられた子どもで、千波は、両親が大地に振り回されている様子をどこか冷めた目で見えています。恵は、島外の高校に行きたいと言って母と大げんかになったため、家出をしたいと千波に言い、千波は、元旅館だった自分の家のはなれを提案します。そこを掃除し、ロウソクなどを用意していたところ、大地がロウソクで遊んで火事を出してしまい、千波の母はやけどで入院してしまいます。そして、千波と恵の仲もぎくしゃくします。

クライマックスは、そんな困難を乗り越え、二人が仲良く、因島で行われるポルノのコンサートに参加する場面です。ポルノは因島の出身で、小中学生を無料でコンサートに招待します。コンサートで千波と恵だけでなく、クラスメートがはじける様子は、読んでいるだけで、ポルノのコンサートに参加しているような気持ちになりました。（Y）

《4》 行って来ました！

姫路文学館で9月3日まで開催されている特別展「ぞうのエルマー絵本原画展」に行ってきました。イギリスの絵本作家デビッド・マッキー（1935-2022）の「ぞうのエルマー」シリーズを中心とした絵本の原画、映像など約170点が展示されています。

展示は主に「ぞうのエルマー」についてですが、最初に「デビッドのお仕事」というコーナーがありました。そこには、デビッドが手掛けたBBCのアニメーション「ミスター・ベン」（日本では、「ミスター・ベンのふしぎなぼうけん」シリーズとして2008年にまえざわあきえ訳で朔北社から出版）や、『せかいでいちばんつよい国』（なかがわちひろ訳 光村教育図書 2005年）、エルマーシリーズの翻訳者で友人であるきたむらさとしや、編集者などとやりとりした絵封筒などが紹介されています。

「ぞうのエルマー」の原画は、日本未刊行作品も含め、原画にあらすじと手に取って見ることができる絵本をそえてたくさん展示され、見ごたえたっぷりです。日本では、きたむらさとし訳、BL出版で、2002年からの20年で30冊も出版されているそうです（注）。

エルマーのカラフルなパッチワークや、パレードのために飾りたてた仲間のぞうたちのいろいろなもようがおしゃれです。トリやサル、ウサギなど、登場する動物たちの表情も豊かで、「ああ、こんな人いるいる」などと思ってしまうました。また、背景に描かれる植物の線が画面いっぱい四方八方にのびており、色づかいも自由。エルマーたちより淡いながらもカラフルな色合いがエルマーたちを見守っているように感じられ、心が和みました。

原画を見て改めて色の美しさを感じ、カラフルな色のエルマーが自分らしく生き、誰とでも友だちになれる様子は、今につながる作者のメッセージだと思いました。（K）

注：それ以前に、『ぞうのエルマー』『またまたぞうのエルマー』（デビッド・マッキー/ぶん・え 安西徹雄/訳 アリス館牧新社 1976年、1977年）が出版されています。

姫路文学館 <http://www.himejibungakukan.jp/>

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

連載「私の出会った児童文学者たち」（宮川健郎）は、今月は、著者のつごうにより休載させていただきます。

<第1回～第3回はこちらからごらんください>

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html

■-----■

【3】全国のイベント紹介

■-----■

● 大阪国際児童文学館を育てる会 2023年度総会記念行事

「三宅興子先生 ありがとうございます」

日時：7月22日（土） 13：15～16：30

会場：大阪府立中央図書館 大会議室

主催：大阪国際児童文学館を育てる会

※ 有料、要申し込み 詳細は↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html#050722

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ひと箱本屋とひみつの友だち』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ 応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/wTrFHBedaw4s3Bus9>

締切は8月11日（金・祝）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

多くの学校は今日が一学期の終業式。この夏休みは例年にも増して、夏祭りや海や山へ繰り出す機会が多くなりそうです。私にとっては母の実家の前を流れる谷川での川遊びが、夏休みの特別な時間でした。どうかみなさまにとって安全で楽しい夏休みになりますように。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
